
SAGA COLLECTIVE

地球にやさしい取り組み

サステナビリティレポート 2024



目次

| | |
|--|----|
| シンプルな報告を心がけます | 3 |
| ここまで進みました..... | 4 |
| わからないことは教えてもらおう | 7 |
| 実践して共有する | 8 |
| 「地球にやさしい」を広げる | 12 |
| カーボン・オフセットを免罪符にしない..... | 15 |
| なぜカーボン・ニュートラルに取り組むのか？ | 16 |
| SAGA COLLECTIVE はどこまで SDGS と付き合うの？ | 20 |

シンプルな報告を心がけます

SAGA COLLECTIVE のサステナビリティ計画の進捗状況を共有します。初回である前年のレポートでは、2030 年度目標および 2050 年度目標を掲げました。

2030 年の目標

- ① CO2e 排出量 (Scope1,2) の NDC 水準¹を全 11 社が達成
- ② カーボン・ニュートラル商品 (Scope1,2) の売上比率 10%を全 11 社が達成
- ③ 円滑な事業承継の実現

2050 年の目標

- ① CO2e 排出量 (Scope1,2) のカーボン・ニュートラルを全 11 社が達成
- ② カーボン・ニュートラル商品 (Scope1~3) の売上比率 10%を全 11 社が達成
- ③ 円滑な事業承継の実現

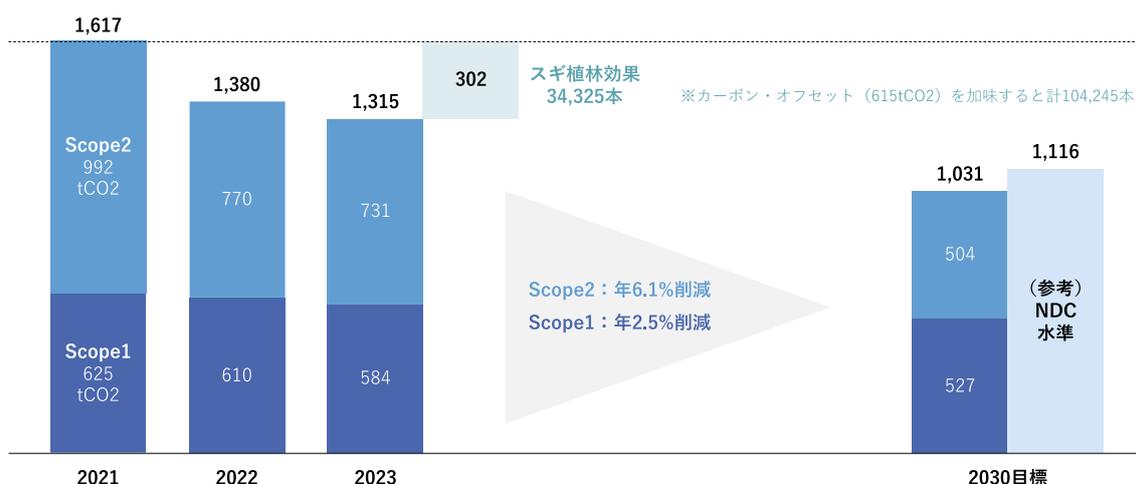
2023 年度は、スタート年の 2021 年度に対して 302tCO2e、18.7%を削減しました。私たちの 2030 年度目標まであと 284tCO2e。早くも折り返し地点を超えました。

SAGA COLLECTIVE 内でベストプラクティスを共有し、運用改善を推進しつつ、設備投資を伴う取り組みにも着手しています。ここからが正念場ですが、着実に前に進んでいます。

¹ Nationally Determined Contribution : 国が決定する貢献。2050 年カーボン・ニュートラルと整合的で、野心的な目標として、我が国は、2030 年度において、温室効果ガスを 2013 年度から 46%削減することを目指す。(出典：地球温暖化対策推進本部「日本の NDC (国が決定する貢献)」)

ここまで進みました

2023年度のSAGA COLLECTIVE全体のCO₂e排出量（Scope1,2²）は1,315t。地球にやさしい取り組みを開始した2021年度に比べ、302t、18.7%を削減しました。



11社のうち7社³はScope1,2の全量をカーボン・オフセットした、カーボン・ニュートラルな会社です。残りの4社も少なくともSAGA COLLECTIVEの活動にかかる排出量⁴をカーボン・オフセットしました。つまりSAGA COLLECTIVEの活動はカーボン・ニュートラルです。

² 自社排出分。Scope1は燃料の燃焼由来（直接排出）、Scope2は電気の使用由来（間接排出）。

³ 有限会社井上製麺（2022、2023）、三福海苔株式会社（2022、2023）、株式会社徳永製茶（2022、2023）、名尾手すき和紙株式会社（2022、2023）、吉島伸一鍋島段通株式会社（2022、2023）、株式会社小野原製茶問屋（2022）、レグナテック株式会社（2023）。

⁴ Scope1,2排出量を売上ベースで按分。全社売上のうちSAGA COLLECTIVEへの売上分を対象にカーボンオフセットを実施。

私たちは地元の自然由来のカーボン・クレジットを選定し、カーボン・オフセットを実施しています。地元の自然に還元しなければ、私たちのものづくりの未来はないと考えているためです。これまで、森林保全や藻場再生のプロジェクトを通じて 615.3tCO₂e のカーボン・オフセットを実行しました。

| | 佐賀県県有林 | 福岡県久山町町有林 | 唐津串浦藻場 |
|------------|--------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|
| クレジット種別 | Jクレジット | Jクレジット | Jブルークレジット |
| カーボン・オフセット | 514tCO ₂ (スギ58,409本/年) | 101tCO ₂ (スギ11,477本/年) | 0.3tCO ₂ (スギ34本/年) |

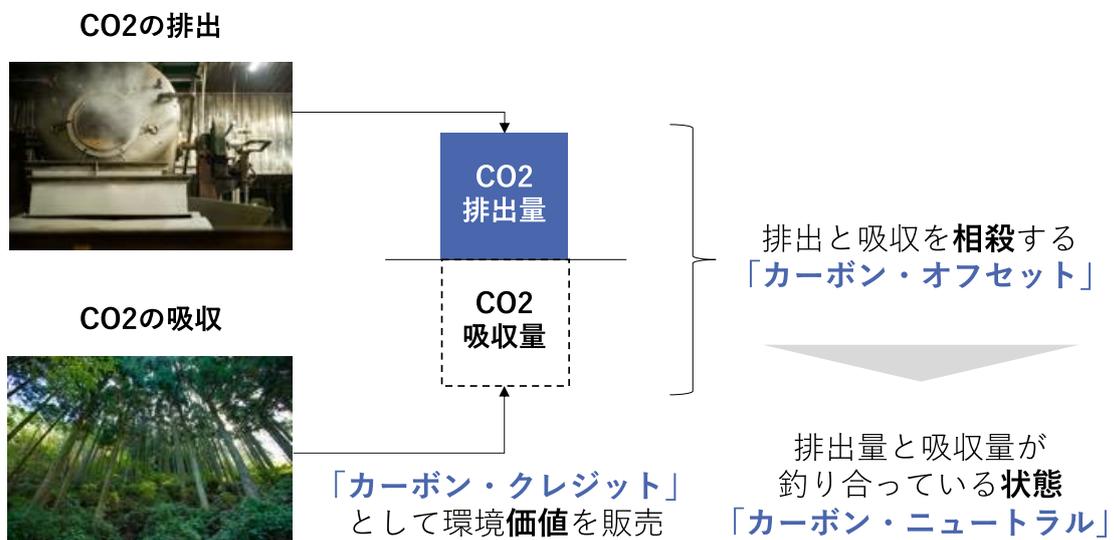


スギ 1 本あたりの CO₂ 吸収量を 8.8kg/年⁵とすると、302t の削減効果は 34,325 本分、カーボン・オフセット 615.3t を加味すると計 104,245 本分に相当します。1ha に 1,000 本の立木があると仮定⁶した場合、104ha の森林面積に相当し、これは東京ディズニーランドと東京ディズニーシーの合計面積に匹敵します。

⁵ 林野庁「森林はどのくらいの量の二酸化炭素を吸収しているの？」

⁶ 同上

(参考) カーボン・クレジット、オフセット、ニュートラルとは



「クレジットをつかってオフセットして、ニュートラルにする。」これがカーボン・ニュートラルのざっくりした考え方です。

例えば、森林保全活動により木の光合成を活性化させて CO2 の吸収量を増やした場合、この増えた分を「カーボン・クレジット」として販売することができます。このクレジットをつかって、CO2 の排出量と吸収量を相殺するのが「カーボン・オフセット」です。CO2 の排出量と吸収量が釣り合っている状態、プラスマイナスゼロの状態を「カーボン・ニュートラル」といいます。

私たちは CO2 排出量を削減した上で、残ってしまった分をこのしくみを活用して相殺しています。クレジットの購入代金はさらなる自然保全活動の資金となります。

わからないことは教えてもらう

私たちは環境保全や地域社会へ配慮する「エシカル」をテーマに、地球・人・社会にやさしい活動を推進しています。このテーマの理解を深めるため勉強会を回開催しています。2023 年度に実施した勉強会は次の通りです。

第 1 回「SDGs を学び直す。」 講師：開発社会学者 佐藤寛

(参考) <https://saga-collective.com/brand-sdgs-satokan1/>

(参考) <https://saga-collective.com/brand-sdgs-satokan2/>

第 2 回「エシカルとは？」 講師：一般社団法人エシカル協会

(参考) <https://saga-collective.com/wp-content/uploads/2023/12/202306.pdf>

第 3 回「省エネ・節電を学ぶ。」 講師：九州電力株式会社

(参考) <https://saga-collective.com/wp-content/uploads/2023/12/202310.pdf>

第 4 回「事業承継」 講師：佐賀県事業承継 引継ぎ支援センター、有限会社旅館あけぼの⁷

(参考) <https://saga-collective.com/study-businesssuccession1/>

(参考) <https://saga-collective.com/study-businesssuccession2/>

⁷ のちの 2024 年 6 月に賛助会員として SAGA COLLECTIVE に加盟。

実践して共有する

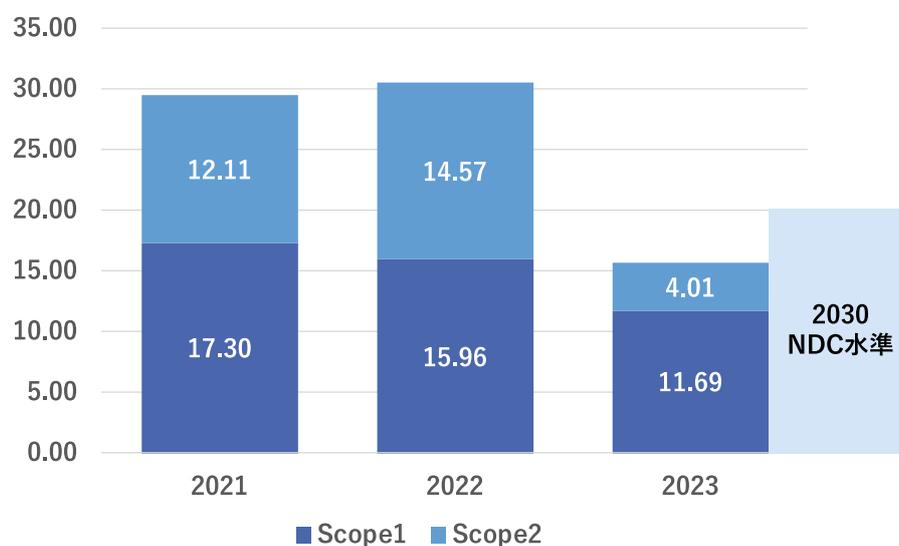
考えたこと、調べたこと、教えてもらったことを実践しています。そして仲間たちに共有しています。ここでは、取り組み事例をみなさんにも共有します。

徳永製茶（うれしの茶）

日本茶の製造販売を営む徳永製茶は 2030 年度 NDC 水準を 7 年前倒しで達成しました。生産スケジュールを見直して、製茶機械の稼働時間を集約し短縮するなどの運用改善を積み重ねてきました。さらに社用車を EV に切り替え、電力も再生可能エネルギーに切り替えています。

さらに、サプライチェーンの上流や下流にあたる Scope3 にも対象を広げ、仕入れ先であるお茶農家さんに対しても茶栽培における CO2e 排出量を試算・共有し、方策をともに練っています。

徳永製茶 CO2排出量の推移[tCO2]



レグナテック（諸富家具）

家具の製造販売を営むレグナテックでは電気由来の CO2e 排出が大半を占めていたため、節電を重点的に実施しています。細かいことを積み重ね、着実に電気使用量を減らしています。

- 照明を LED 化
- 電力量モニタリングシステムを導入
- 昼休みに電気を止める
- 全社員に毎月会社の電気代を伝え、「全年比 10%減」の目標を定めて進捗状況を共有



天山酒造（日本酒）

天山酒造は、SAGA COLLECTIVE の中で CO2e 排出量が最も多い会社です。6 代目蔵元の七田謙介は「責任を感じた」として、「持続可能な酒蔵の実現」をスローガンに掲げています。

まずは専門家とともに CO2e の排出量を算定・分析し、設備投資を含む削減計画を立案しました。さらに、サプライチェーンの上流や下流にあたる Scope3 にも対象を広げ、酒米の仕入れ先である契約農家さんに向けても脱炭素経営の情報共有をしています。

(参考) <https://saga-collective.com/gx-tenzansakebrewery-2/>



限りある資源を有効に

SAGA COLLECTIVE の商品はすべてカーボン・オフセット済みの実質カーボン・ゼロです。天山酒造の商品⁸を除き、カーボン・オフセット費用を販売価格に上乗せしていません。CO2e 排出量の削減により、カーボン・オフセット費用は販売価格の 1%を切りました。費用は私たちが負担しています。そして、環境に配慮し、限りある資源を使い切る次のような工夫をしています。

- 簡易包装
- 商品を束ねている紐は「吉島伸一鍋島緞通」の縦糸を再利用
- リーフレット、商品カードにバガス（サトウキビの残渣）とベジタブルインキを採用
- 印刷会社から出る裁断クズや古紙を再利用した地球にやさしい緩衝材を使用



⁸ カーボン・オフセット費用として約 50 円を販売価格に上乗せしています。

「地球にやさしい」を広げる

自然環境が悪くなると、私たちはものづくりを続けることができません。自然環境を守るには、地球にやさしい活動の輪を広げる必要があります。

サガテレビ

サガテレビ「春フェス」にて、来場者の交通手段や廃棄物回収量、施設の電気や水道使用量、キッチンカーのガスやガソリン使用量などから CO2e 排出量を算定しました。結果、来場者の交通手段による排出が非常に多いことが判明しました。

今回の算定でイベント実施に伴う CO2e 排出量と内訳が一目瞭然になりました。今後は来場者の皆様にもご協力いただきながら、より環境負荷の少ないイベントをつくっていく予定です。



サガン鳥栖

J1 リーグ戦にて「SAGAN ゼロカーボンチャレンジマッチ」を開催。SAGA COLLECTIVE は観客の来場手段や、ゲーム終了後の廃棄物回収量から CO2e 排出量を測定しました。また、佐賀県環境課（現、脱炭素社会推進課）とともに公共交通機関の利用、リユーズブルカップの利用を呼びかけ、サポーターに脱炭素のアクションを呼びかけました。

試合は後半ロスタイムの2ゴールで劇的な逆転勝利。逆転ゴールを決めたファン・ソッコ選手に SAGA COLLECTIVE のカーボン・ニュートラル商品を贈りました（写真はサガン鳥栖が提供）。



佐賀県庁と慶應大学大学院メディアデザイン研究科

産官学連携により、「人・社会・地球にやさしい」エシカルな暮らしの実現をめざし、社会実証を行っています。とりわけ「地球にやさしい」脱炭素の取り組みを発信することで、地域社会への浸透を図っています。

KDDI 株式会社と連携した「エシカルアクションプロジェクト」では、佐賀県および福岡県の約 200 店舗、1,200 人の一般消費者に「徳を積んで、得をする」実証実験にご協力いただきました。例えば、店舗で「てまえどり」などエシカルな行動をするとポイントがたまり、このポイントで SAGA COLLECTIVE などのエシカル商品が当たる懸賞に応募することができます。

このように一般消費者に対してエシカルな行動や商品の選択肢を提示することで、アクションの変化を促しています。



カーボン・オフセットを免罪符にしない

私たちは地元の自然環境を保全するプロジェクト（自然由来のクレジット）を選定しています。

具体的には、「佐賀県有林」「福岡県久山町有林」のJクレジット、および「唐津市串浦の藻場

再生」によるJブルークレジットをつかっています。私たちは必ず現場を視察しています。現場

を確認し、自然環境の保全に取り組んでいる方々と意見交換をし、お互いの取り組みに賛同した

うえで、クレジットの売買契約を結びます。お金を払うことで環境に負担をかける言い訳になら

ないよう、カーボンオフセットの実施においては「地元の自然由来のクレジットであること」「つ

くる人たちとつかう私たちが相思相愛であること」を大切にしています。

さらに、私たちは2024年3月に佐賀県と「森川海人つ協定」を締結しました。県有林の一部を

借りて、除伐や除草、植林といった森林保全活動を自ら取り組んでいきます。



なぜカーボン・ニュートラルに取り組むのか？

前回レポートの内容と重複しますが、大事なことなので繰り返しお伝えします。

循環と継承

SAGA COLLECTIVE は 11 社、10 業種から構成されています。諸富家具、有田焼、うれしの茶、

神埼そうめん、佐賀海苔など、佐賀でものづくりをしています。

どの産業も自然の恵みなくして、成り立ちません。調達・製造・販売といった事業活動を自然に

寄り添いながら行ってきたことが、100 年を超えて継承され続けてきた秘訣です。

各社には 30 歳前後の後継予定者がおり、目の前の事業承継はもちろん、次の 100 年の持続可

能性を高める形を模索しています。

(諸富家具)
レグナテック



(醤油・味噌)
丸秀醤油



(佐賀海苔)
三福海苔



(うれしの茶)
小野原製茶問屋



(ゆず製品)
川原食品



(日本酒)
天山酒造



(うれしの茶)
徳永製茶



(和紙)
名尾手すき和紙



(有田焼)
李荘窯業所



(神埼そうめん)
井上製麺



(鍋島緞通)
吉島伸一鍋島緞通

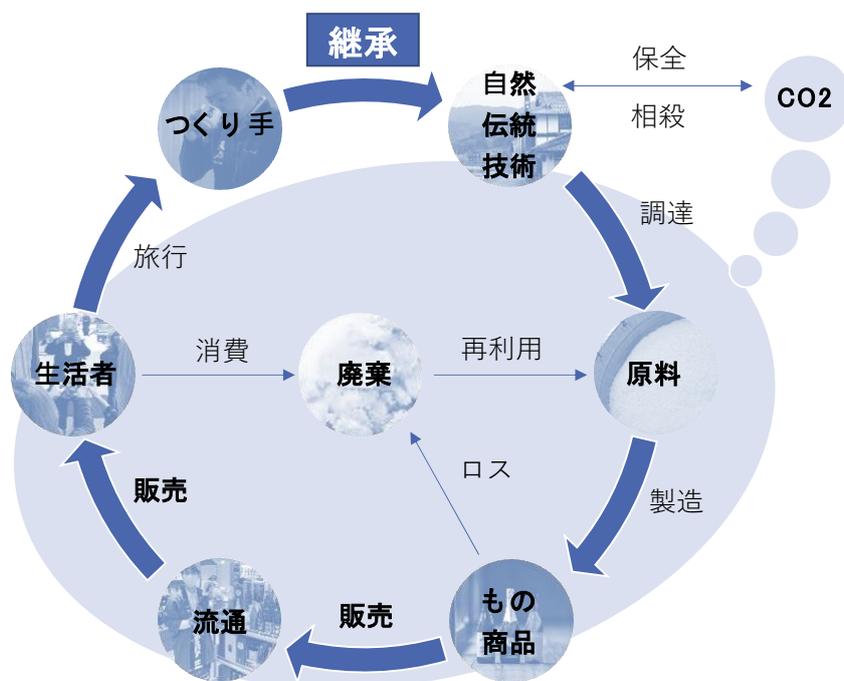


「人、社会、地球にやさしい」の心がけ

当初のグループ活動の目的は海外販路の開拓でした。現在も販路開拓が重要であることに変わりはありませんが、新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、各社はそれぞれの事業活動の全体像を意識するようになりました。

11社で議論を重ね、「次の100年の持続可能性を高める。まずは目の前の事業承継を円滑に進める。」ことが目的で、販路開拓はその一つの手段であると、目的と手段を整理しました。

現在は、「エシカル（人にやさしい、社会にやさしい、地球にやさしい）」を SAGA COLLECTIVE の活動における心構えとし、各社の事業活動が循環していくことを目指しています。



「地球にやさしい」は世代と業種を超えたテーマ

SAGA COLLECTIVE は、次の 100 年の持続可能性を高めるため、事業を渡す人と受け取る人の双方が安心して継承できる舞台を整えることを目指しています。

特に気候変動は、11 社共通の悩みです。私たちは困っています。

例えば、佐賀の海苔は、2022 年シーズンは記録的な不漁となり、19 年続いた生産量および販売額日本一の座を明け渡しました。色落ちが発生し、質もあまりよくありませんでした。雨が降らず山の養分が有明海に注ぎ込まれなかったことが一因とされています。



また、2021年8月の大雨により土砂災害が発生し、名尾手すき和紙が被災しました。旧工房での紙すきが続けられなくなり、新工房への移転を余儀なくされました。

このように、気候変動が各社に影響を与えています。次世代への継承に黄色信号が灯っています。

そこで、私たちは「地球にやさしい」カーボン・ニュートラルに取り組むことにしました。

「できることからやってみよう。」そんな気持ちではじめました。



SAGA COLLECTIVE はどこまで SDGs と付き合うの？

SAGA COLLECTIVE は開発社会学者の佐藤寛先生を招き、SDGs に関する勉強会を毎年開催しています。「SAGA COLLECTIVE はどこまで SDGs と付き合うの？」。2024 年 6 月に開催した勉強会のタイトルです。

異業種の活動、さらにカーボン・オフセットの実行という国内でも珍しく、先駆例として一定の評価を得るようになりましたが、「まだ先行者利益はあるが今後はどうする?」「いいことをしていると思って見落としている視点がない?」など、佐藤先生から私たちに問いかけていただきました。そして「Knowing and Showing」。問題の認識を明示することの重要性を学びました。

私たちに求められるのはサプライチェーン全体における道義的責任。つまり原料の調達から加工・販売・消費・破棄されるところまでがエシカルかどうか、責任を持つことです。

「電気自動車、天然素材だから地球にやさしいのか」「できていることだけアピールして、原材料や加工過程でのエネルギー消費、化学物質の利用、労働搾取などに目をつぶっていないか」など、自問自答の日々です。

私たちは「できていないことから目を背けず、問題を認識していることを、勇気をもって宣言していきたい」と考えています。

私たちの活動は道半ば。問題をとともに解決していく仲間を増やしながら、前進しています。

私たちは佐賀でものをつくっています。

とても楽しい仕事です。

永く続けたい仕事です。



発行者

SAGA COLLECTIVE 協同組合

佐賀県佐賀市諸富町山領 266-1

saga-collective.com